

川越 (埼玉県)

商店街に五輪バナーフラッグを掲出 オール川越で大会機運醸成

川越商工会議所は7月10日、川越市と連名で作製した東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の公式エンブレムを使用したバナーフラッグを、川越商店街連合会などの協力の下、「川越新富町商店街(クレアモール)」の街路灯21本に掲出した。同市は同大会のゴルフ競技会場となっており、フラッグ掲出は大会に向け機運醸成を図る取り組みの一環だ。同所によれば、自治体と経済団体が連名で公式エンブレムを使用したフラッグを作製したのは全国初。



▲バナーフラッグを掲げる日商の三村会頭(左)と川越商工会議所の立原会頭

「技」などの文言を入れたデザインだ。公式エンブレムを使用できる機関は開催都市(自治体)や大会スポンサーなどに限られるが、同所では、大会機運醸成のためには地元経済界の総意が必要であり、公式エンブレムを使用したフラッグを人の集まる場所(商店街)に掲出することで、地域一体となって盛り上げると考えた。この度、大会組織委員会より自治体が主体の取り組みに経済団体などが参画する場合として、公式エンブレムの使用が全国で初めて認められ、今回の掲出に至った。

フラッグは今年度中に市内全域で100枚程度の掲出を目指し、来年度以降さらに掲出範囲を拡大する予定。同所は「オール川越で大会機運醸成に貢献する」と意気込む。7月11日には日本商工会議所の三村明夫会頭が同市を訪れ、同所の立原雅夫会頭らと共にフラッグが掲げられた商店街を視察、蔵造りのまち並みなども巡り観光振興策へも関心を示した。

富山

「ポスターの街・とやま」をPR まちを挙げてポスター展応援イベント

富山商工会議所(会頭・高木繁雄)に事務局を置く「ポスターの街・とやま」実行委員会は、8月11日から10月8日まで富山県美術館(旧富山県立近代美術館)で開催されている国際公募ポスター展「第12回世界ポスタートリエンナーレトヤマ(IPT)2018」の協賛イベント、「ポスターの街・とやま2018」を富山市内各所で開催している。IPTとは世界から最新のポスターを公募し、審査・選抜する国際公募展で、1985年から旧富山県立近代美術館が3年に1度開催。今回は富山県美術館に移転後初となる開催で、世



▲「IPT2018」ポスターを掲示した富山商工会議所ビル



▲中央通りの「IPT2018」ポスター掲示。8月30日から「IPT応援ポスター」を掲示している

界47カ国・地域から総計3239点のポスターが寄せられ、入選・受賞作品に招待作品を加えた約400点を展示している。同所などはこのポスター展を盛り上げ、訪日外国人も含めデザイナーや展覧会関係者、地域住民らに「ポスターの街・とやま」をアピールするため協賛イベントを実施。同所では10月8日まで、1階北側に設置したモニターでIPT歴代受賞作品を紹介するほか、ガラス面にIPT2018のポスターを掲出している。また、商店街では歩道にイーゼルを設置してIPT2018のポスターや富山アイ

トダイレクターズクラブによるIPT応援ポスターを掲示、銀行やホテルなどでもさまざまなポスター展を開催している。詳細は <http://www.ccis-toyama.or.jp/toyama/poster/index.html>を参照。

白山 (石川県)

盆通りで「東京五輪音頭2020」 サマーフェスティバル盛り上がる

白山商工会議所に事務局を置く「サマーフェスティバル白山実行委員会」は8月19日、白山市役所に隣接する松任総合運動公園で、「サマーフェスティバルHAKUSAN 2018」を開催した。同イベントは、夏の風物詩として多くの人に親しまれており、当日は市内内外から3万7千人が訪れ、地元グルメや各種イベントを楽しんだ。



▲盆通りを楽しむ参加者ら。東京五輪の法被姿で踊る人も

小学4〜6年生を対象とした職業体験コーナー「サマーフェスティバルランド」では、警察官や和菓子職人、ゲームクリエイターなどの職業を子どもたちが体験。また、辛くて旨い料理を競う「KARA旨グ



▲多くの人でにぎわうKARA旨グランプリ会場

ランプリ」は今年で5回目の開催となり、県内外から飲食店40店が出店、来場者の投票で竹の家(金沢市)の「とろけるパイカの旨辛丼」がグランプリを獲得した。

当日は、伝統芸能「虫送り太鼓」の演奏や「手筒花火」、一般来場者が参加できる「盆通り」などのイベントも実施。特に今年の盆踊りでは地元の伝統的な「松任音頭」「松任じよんがら」に加え、「東京五輪音頭2020」を実施。地元企業や、一般市民の飛び入りも含め大勢の来場者が参加して、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの気運を盛り上げた。

泉佐野 (大阪府)

「さのまちゼミ」100講座開講 健康からビジネスまで多彩にそろそろ

泉佐野商工会議所と泉佐野商業界連合会は8月17日から9月30日まで、「第2回さのまちゼミ」を開催している。「まちゼミ」とは、商店主らが講師となってプロのこつや知識を教える少人数制のミニ講座のこと。店とまちのファンをつくる取り組みとして、全国に広がっている。



▲市内の町屋では、特産品「泉州水ナス」の漬物店によるぬか漬体験など複数の講座が行われた

今回で2回目のさのまちゼミは、海外からの観光客が増加する中、まちににぎわいを創出しようと同所や行政、金融機関、地域団体、学校などが地域全体で取り組んでいるもの。参加店の有志らも実行委員会をつくって盛り上げている。「きれい(美容)」「健康」「つくる」「グルメ」「まなぶ」「ビジネス」の



▲ケーキ店でのロールケーキ講座。オーナーシェフは実行委員会委員長を務める

昨年10〜11月に開催した第1回は60講座が開講され、499人が受講。約9割が女性でデコレーションケーキづくりやヨガ、中国語講座などが好評だったという。「店のこだわりや店主の人柄を感じられるのがまちゼミのいいところ。行ったことがない店もぜひ訪ねてみてほしい」と同所は話している。

詳細は <http://sanonachizemi.sesanetv.com>を参照。